



知床科学委員会 しんぶん

海域ワーキンググループ

No.12



「海域ワーキンググループ」では、知床の海の生き物、漁業やレクリエーションなどの活動に関して、科学的な視点から評価と検討を行っています。

◆◆◆◆◆ 海域管理計画の見直し ◆◆◆◆◆

知床の海には多種多様な海洋生物が生息しており、渡り鳥の飛来地としても世界的に重要な地域となっています。また、豊かな自然環境を基盤として地域文化が育まれ、漁業や観光業などが営まれています。

知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画は、「海洋生態系の保全」と「人間活動による適正な利用」の両立を目的とした計画です。

令和4年度（2022年度）の科学委員会では、5年ごとに行っている海域管理計画の見直しについて検討しました。

「法規制」と地域住民による「自主的管理」を基調とし、モニタリングに基づく適切な管理を推進することにより海洋生態系の保全と地域経済活動の両立を図ります。

平成30年（2018年）第3期 知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画
更新 （計画期間：H30年度～R4年度）

令和5年（2023年）第4期 知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画
（計画期間：R5年度～R9年度）

見直しによる主な変更点

- ・ 知床周辺海域の現状について、最新のモニタリング結果に基づき内容を更新しました。
- ・ 魚介類の指標種としてブリを追加しました。（裏面もご覧ください。）
- ・ 海洋レクリエーションに関し、安全の徹底に関する記載を追加しました。

第4期海域管理計画は、知床データセンター（<https://shiretokodata-center.env.go.jp>）で公開しています。

